

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500039		
法人名	社会福祉法人 伊万里敬愛会		
事業所名	社会福祉法人 伊万里敬愛会 グループホーム椎の木の家		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町小黒川145番地1		
自己評価作成日	令和3年11月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年12月6日	外部評価確定日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①2地区の区長・民生委員・地域包括支援センターの職員・家族代表の方が、運営推進会議のメンバーに入っているため、事業所として色んな情報や意見などが得られる。また、地域の方が事業所の内容や、認知症に対する理解があり協力が得やすい。②今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域で行われる行事には参加が出来なかったが、日常生活の中で気軽に声をかけられ、気にかけて下さる事が多い。③川の拡張工事で、近隣の立ち退きがあり、民家は少なくはなっているが、風情は残っている。また、古民家で、ご利用者様が安心して生活出来る環境となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム椎の木の家」は、平成15年4月民家改修型の事業所として定員9名で開所されている。事業所開設の際に作られた理念である、「認知症があっても一人一人が地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」をモットーに、現在も変わる事なく全職員が意識しながら日々の支援を行っている。管理者は日頃から入居者、職員の状況を見ながら適宜アドバイスをし、スムーズな対応が出来るよう、心掛けている。事業所の母体である病院が施設近くにあり、入居者・家族・職員にとって医療連携が図りやすく、それぞれの安心に繋がっている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	椎の木の家の理念、「認知症があっても一人一人が地域の中で当たり前に暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」を念頭に、業務の中に取り入れて「普通の場所で・普通の家で・普通の生活」を実践している。また、職員が見やすい所に貼り、常に意識し心掛けている。	開設時作られた理念は一貫しており、現在も変更されていない。「認知症があっても一人一人が地域の中で当たり前に暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」との内容を朝礼時に唱和する事で、職員は常に意識しながら、日頃の業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年のように、地区行事(祇園祭・おくんち)などに参加し、事前準備にも参加していたが、新型コロナウイルス感染拡大の為、行事は中止となり、地域との繋がりがあまりなかった。	自治会の参加戸数が減少し、最近になって解散した。コロナ禍の為、地区行事や施設行事も中止となる等、地域との交流の機会が減少している為、天候を見ながら施設近隣に散歩に出かける等、地域との交流を支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員会の新年の挨拶には、必ず参加して情報を共有している。また、地域でこなわれているサロンにも参加するように心掛けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大により、書面での会議録を送付し行ったが、後日、メンバーの方へ電話で聴取を行い、意見を頂いた。年間の行事報告や利用者様の近況等を報告し、いろんな意見を頂いてサービスの向上に活かしている。また、区長や民生委員の参加がある為、地域の情報も聞く事が出来ている。	コロナ禍の為、状況を見ながら運営推進会議を行っている。書面での運営推進会議の際は、後日運営推進委員へ聞き取りを行い、内容は議事録に残す等、双方向からの会議となっている。第2回運営推進会議は、スペースを保ちながら顔を合わせての会議が開催されており、今後も状況を見ながら開催予定である。議事録は施設玄関に掲示されている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂いているので、情報交換を行なっている。また、分からない事など電話での対応でも解決できるようにしている。	運営推進会議に市の担当者が参加しており、顔なじみの関係が出来ている。以前生活保護の件で尋ねた事があり、分からない事があれば気軽に相談出来る間柄となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会で理解を深めている。玄関の施錠については、川の拡張工事もあり、必要に応じて施錠している事もある。家族へは、説明し理解して頂いている。	オンライン研修受講者が資料を作成し、勉強会の際研修を行い、職員はレポートを提出する事で、身体拘束の内容把握に努めている。施設隣で川の拡張工事が行われており、安全の為玄関の施錠を行っているが、家族への説明、了承の際記録に残していない為、今後必要な場合は記録に残す予定である。身体拘束を行わないケアを目指しており、言葉の拘束についても日頃から気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、ニュースなどで他の施設の情報が流れた時など、椎の木の家会議で取り上げ、話し合って学ぶようにしている。また、虐待についての勉強会にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者がいない。研修内外で、学ぶ機会があれば、参加し学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学へ来て頂いて、家族様や利用者様の質問を聞くようにしている。また、事前に、利用者様の面会へ行き、情報を得ている。必要に応じて、医師から説明をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を備えている。新型コロナウイルス感染拡大により、面会中止の期間が長かったが、電話や広報誌・写真等を送付し、利用者様の様子を見てもらった。家族から電話を頂く事が多く、意見・要望など聞く機会も出来た。また、職員へ情報共有し、話し合っサービス向上に努めている。	感染症対策の為、家族の面会は少ないが、日頃の様子を電話でこまめに伝える等、何気ない会話から家族の思いを聞き取るよう、心掛けている。毎月送付している請求書と共に施設便りや写真を同封し、近況を伝えている。連絡が必要な際はメールで行い、確実な連絡・報告が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の椎の木の家会議の時に、職員の意見(月行事・利用者の担当)を聞き、日常業務にも取り組んでいる。必要に応じて、話し合う機会を設けている。	管理者と職員は日頃から何でも言える関係性が出来ている。毎月行われる職員勉強会で出された意見や要望は、上層部へ伝わるようになっており、業務改善等に反映している。課直属上司との面談が年2回実施されており、職員の思いや頑張りを評価する事で職員のモチベーションアップに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、職員個々の自己評価を行っている。それを元に上司が評価をし、必要に応じて面接を行なっている。働きやすい職場環境・条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、出来る限り参加させ、キャリアカードを作成し活用している。知識や技術を深めてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加や伊万里市のコミュニティ会議などに参加し、意見交換の機会を作れるように図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面会を行い、利用者様や家族の意見を聞き取り、安心してサービスを受けて頂けるように心がけている。体験入所された方はいなかったが、入所されて寄り添う事で信頼関係を築き、安心して生活して頂くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、家族から利用者様の情報収集を行い、見学してもらい、事業について説明を行なっている。不安な事や要望なども聞き取るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族の要望を聞き、ケアマネジャー・担当とも話し合い、必要とされている支援を把握し、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ない事を見極めて、お互い協力する事を心掛けて、日常生活を送って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染拡大により面会制限があり、利用者様・家族が交流できる場が少なかったが、必要に応じて家族の方にも協力して頂くように努めた。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事へ参加する事を大切にし、馴染みのある方との交流を持つことが出来るように努めていた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により地域の行事やボランティアの活動も中止となった為、馴染みの場所まで散歩したりドライブなどを行った。	コロナ禍の為、外出や訪問も少なく馴染みの人や場所等地域との交流は困難だった。お盆や法事等も感染予防の為家族が遠慮され外出・外泊をされた入居者はいない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操にみんなが参加できるように努めている。また、気が合った者同士、行動される場合もあり、その人に合った関わりを持つように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や施設への長期入所は、職員が面会に行くように心掛けている。また、家族の方との交流もあり、いろんな情報を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様・家族・担当者・ケアマネジャーと話し合いの場を持ち、本人にあった介護計画書を作成し、評価も行っている。また、日常生活の中での会話を大切にする事で、思いや要望などを聞き取るように努めている。	入居者には担当職員が決められており、日頃の生活の中から、本人の希望や思いを聞き取るよう心掛けている。好きな飲み物や食べ物を給食に取り入れる等、入居者の意向に沿って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中で、生活歴への情報収集に努めている。また、家族へ聞く事で、どのように生活をされていたか情報収集に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活記録(ケアカルテ)を行ない、朝礼時に、朝夕の夜勤から日勤者へ、日勤者から夜勤者へ申し送りし、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や必要に応じて電話で、近況を伝えるようにしている。その中で、家族と本人様との会話を聞き取り、必要に応じてケアについて話し合いの場を持っている。また、ケアプランを見直すことで、その人に合った支援に取り組むように心掛けている。	介護支援専門員はケアプラン作成時、担当職員より日頃の生活状況の聞き取りと家族の意向の確認を行っている。一堂に会してのサービス担当者会議は行っていないが、ケアプラン開始前には家族へ内容説明を行い、了承を得ている。状態変化に伴うケアプランの作成を行う等、現状に即した介護計画がされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録(ケアカルテ)へ日々の記録を記入している。情報を共有することで、介護計画書・ケアに繋げて、評価・見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、新型コロナウイルス感染拡大により、以前のように家族交えての行事開催が難しくなっているが、職員の勤務時間を調整しながら、椎の木の家独自の方法で行なっている。家族へ写真を送付し、利用者様の状況を見て頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事は、地域の方へ協力をお願いし、安全に楽しむ事が出来ていた。今後も行事等がある場合は参加したい。また、運営推進会議を利用し、災害時の対応について話し合いを持ち、協力して頂くようお願いし、継続していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ病院を聞き取り、必要に応じて受診をしてもらっている。又、かかりつけ病院がない利用者様に関しては、協力病院を紹介し承諾を頂いている。	施設入居の際、主治医変更については急変時の対応等、十分な説明を行い、変更を依頼している。母体の病院が施設近所にあり職員付き添いにて定期受診を行っている。歯科、眼科は施設への定期往診があり、必要時は家族連絡の上、診療を受けている。母体の病院より週1回の訪問看護による健康管理や緊急時の対応等、入居者、家族にとって安心出来る施設である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や判断を聞きたい時は、協力病院へ相談している。また、週1回医療連携を活用し、担当の看護師へ相談やアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院されている病院のソーシャルワーカーを窓口にして、連絡を取り合い情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難な場合は、主治医と家族が話し合う場を儲けて、利用者様・家族が安心できるような支援に取り組んでいる。	入居時重度化した場合の対応について家族と十分な話し合いを行っている。医療が必要な際は、母体病院への入院や身体機能が低下された場合は、系列特別養護老人ホームとの連携があり、グループホームでの看取りを希望される家族は少ない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部・内部研修にて、緊急時の対応について学習している。また、地域の消防の派遣をお願いし、緊急時の対応についてもアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の消防避難訓練・災害時の避難訓練を行なっている。地元の消防署より来て頂き、通報訓練・避難誘導・消化器の使用・非常ベル・火災通報装置など説明を受けている。また、地域の方へ声かけし見守りを願っている。	消防団・施設職員・入居者参加にて年3回、日中夜間想定訓練を行っている。法人協議の基、グループホームの夜間配置職員を2名とし、安心・安全に配慮している。2階に車いす利用者が4名生活されており、夜間有事の際の避難方法について不安があり、次回消防訓練の際アドバイスを受ける予定である。必要時は系列特養へ避難する事になっているがグループホームでも非常食、飲水を3日分準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基に対応している。また、マナーアップ運動を行い、言葉掛け等利用者様ばかりだけではなく、職員間も気をつけている。	入居者はもとより、職員間でも名前を呼ぶ際、「ちゃん」付けで言わないよう普段の言葉使いから気を付けている。日頃の入居者の排泄介助や入浴介助を行う際は、特に人格や尊厳・プライバシーの保護に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での関わりや椎の木サロン等で、利用者様へ希望を聞き取りが出来るような言葉かけを行ない、支援するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様へ寄り添い、会話をしながら、一人一人のペースに合わせて、支援を行なうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容している。また、衣類を選ぶことが出来る方については、選んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	令和3年8月より配食で対応している。その人に合った食事形態で対応し、出来る限り嗜好を大切に対応している。又、お茶を注いだりできる事はして頂いている。	令和3年8月より系列特別養護老人ホームの厨房による一括調理となっている。入居者の嗜好や禁忌食材、食事形態は管理栄養士が把握し、出来た状態で運ばれて来る。つぎ分けはグループホームで行っているが、施設内で調理をしていた頃と比べてゆとりが出来た為、入居者との十分なコミュニケーションの時間を確保出来るようになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態やカロリーについては、栄養士に相談し、利用者様一人一人に合わせ提供している。水分補給は、食事以外にも、間食で2回水分補給するようにしている。それ以外でも、状況に合わせ努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、毎回口腔ケアを行なっている。洗面所へ行ける方は、誘導し歯磨きをして頂いている。就寝前に義歯は、洗浄剤へ浸けて、起床時に渡している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を確認し対応している。その人に合ったパンツ・パットを使用し、出来る限り排泄を促している。排泄内容・時間を記録している。	昼夜通して紙おむつ使用の入居者もトイレでの排泄を心掛け、自立支援に繋がるよう介助している。定期的な排泄介助により尿意を把握する事で紙パンツから布パンツに変更した方もおられ、入居者の排泄関連費用の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを確認し、必要に応じて対応している。また、乳製品の摂取等も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の入浴は、1日おきで対応しているが、本人の希望も聞いて支援している。入浴しない方については、衣類交換・部分清拭等を行い、清潔保持に努めている。	浴室は毎日準備している。声掛けに嫌がられる事もある為、入居者の入浴状況を見ながら本人の意向に沿って週3回入浴介助を行っている。浴槽にはリフトが設置しており、立位困難な入居者も浴槽に浸かってゆっくり入浴する事が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、部屋で休んで頂いたり、リビングで過ごされたり過ごし方も自由である。就寝時もバラバラで、利用者様の状況で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にお薬ノートを管理し、内容が確認できるようにしている。また、薬局へ薬を取りに行った場合は、症状など聞かれる場合もある為、確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ等、出来る事は、お願いしている。又、利用者様の要望で、長年、好んで飲まれていた物や利用者様の嗜好品など聞き取り、取り入れる事で楽しみを持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事やホームでの行事があった場合は、出かけるように心掛けている。利用者様の希望を聞き、必要に応じて職員が付き添い対応している。また、留守にする場合は、近所の方へ声掛けし出かけるようにしている。	新型コロナウイルス感染症予防の為、外出の機会は少ないが、満開のひまわりを見にドライブに出掛けたり、天気の良い日には施設外に散歩に出かける等外出支援を行い、気分転換を図っている。新型コロナウイルス感染症が終息した際は、以前のように家族の協力を得て地区の祭りに参加したいと希望している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、現金を所有されている方はいないが、外出した時は、希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より電話がかかってくる事が多く、対応している。また、荷物・手紙が届いた時は、内容を伝え、電話でお礼を言えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型で、浴室・洗面所・炊事場など、それぞれの空間があり、危険な所は黄色いテープなどを貼り事故防止に努めている。また、各部屋には、家族の写真や今まで使用されていた品物等を持ち込まれ、使用されている。	民家改修型施設の為、ホールは家庭的な空間である。ソファに座りテレビを見たり会話を楽しんだり、思い思いに過ごされている。現在川の拡張工事があり、暫くは大きな音と振動で不安な状況もある。感染症対策として毎日ホールの換気や検温、手指消毒、手すりやドア等、手が触れる場所は1日4回消毒を行う等、感染予防を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過したり、部屋で休まれたり一人一人の状況に合わせて過ごして頂いている。また、気の合った方が隣に座って頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に部屋を案内し、本人様・家族とも話し合い、部屋を決めて頂いている。必要に応じて、部屋替えも行っている。また、家族の写真や絵などを飾り、居心地よく過ごされるように工夫している。	民家改修型の為、各居室は自宅に居るような雰囲気である。各居室には加湿器が設置され、入居前に利用されていた整理タンス等の持ち込みや家族の写真が飾られ、居心地よく過ごされている。担当職員が季節ごとに衣替えを行い、必要な衣類等があれば家族へ連絡している。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には、手すりを設置している。また、出来る限り、段差も解消している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない